

第63回（令和8年度） 九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会要項

1 参加校 別紙参照

2 主催 (主管校) 北九州工業高等専門学校
(担当校) 久留米工業高等専門学校
(担当校) 佐世保工業高等専門学校
(担当校) 沖縄工業高等専門学校
九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟

3 期間 令和8年 6月27日(土)・28日(日)
令和8年 7月 2日(木)・ 3日(金)・ 4日(土)・ 5日(日)・11日(土)・
12日(日)・16日(木)・17日(金)・18日(土)・19日(日)・
20日(月)
令和8年11月13日(金)・14日(土)・15日(日)・17日(火)

4 競技種目・競技会場及び試合開始時刻 競技種目別実施要項参照

5 開会式及び閉会式

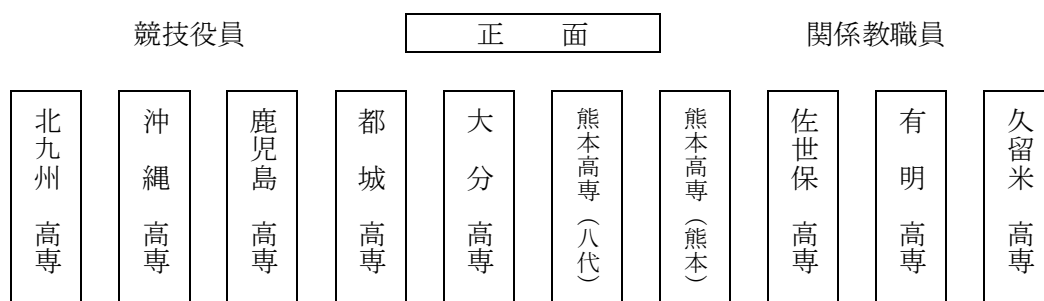
ア 開会式

1. 役員選手集合
2. 開式
3. 開会宣言
4. 国旗掲揚
5. 大会旗掲揚
6. 優勝杯返還及びレプリカ授与
7. 大会会長挨拶
8. 審判長注意
9. 選手宣誓
10. 閉式

イ 閉会式

1. 役員選手集合
2. 開式
3. 成績発表
4. 表彰
5. 審判長講評
6. 大会会長挨拶
7. 国旗、大会旗降納
8. 閉会宣言
9. 閉式

ウ 開会式及び閉会式配列図



- (注)
- 1 正面に向かって、右側から構成校順に整列する。
ただし、担当校は左端に整列する。
 - 2 各会場とも開会式は、予定時刻30分前に指定された場所に集合すること。
 - 3 選手団の服装は、各高専で定められたものを着用する。
 - 4 開会式及び閉会式の式次第は総合的なものを想定しており、各競技の実態に合わせて変更可能とする。

6 参加資格 九州沖縄地区国立高等専門学校に在学する学生とする。

7 競技方法 競技種目別実施要項による。

8 表彰

- (1) 学校対抗（団体の部）の優勝校に優勝杯を、準優勝校に準優勝杯を授与し、1～3位入賞校に賞状を授与する。
- (2) 優勝杯及び準優勝杯は、それぞれ持廻りとする。
- (3) 前年度優勝校にレプリカを授与する。
- (4) 個人対抗（個人の部）の各種目の1～3位入賞者に賞状を授与する。

9 選手の変更

参加申込後の変更は、原則として認めない。

ただし、やむを得ない選手の変更については、監督会議において承認を得るものとする。

10 監督会議

競技種目別に定められた日時及び場所で行う。

出席者は、監督及び学生代表を原則とし、詳細は競技ごとに定める。

11 全国大会出場資格

本大会において、次に該当するものは第61回全国大会の出場権を得るものとする。

(1) 陸上競技

(ア)男子3位（リレーは2位）、女子2位までの入賞者。

(イ)但し、下記の種目は（ ）に示す有効期間内の公認記録における標準記録を設け、男子400mHは全国の上位24名以内、それ以外の種目においては男女ともに全国の上位16名以内とする。

男子： 400mH（59秒00）、3000mSC（10分30秒00）

女子： 200m（28秒60）、3000m（12分00秒00）、100mH（17秒90）、4×100mR（56秒00）、走高跳（1m40）、円盤投（23m00）、やり投（25m00）

（公認記録の有効期間：2026年4月1日～2026年7月30日まで）

(ウ)男子リレーについては、2位までのチームに加え、有効期間内の公認記録における全国の上位8チームが出場できる。

(エ)1種目1校2名以内、同一人は2種目以内（リレー種目は除く）とする。

(オ)陸上競技のトラック種目における全国大会出場枠の最下位に同着が複数出た場合、再レースを実施することがある。

(2) 水泳競技：各種目上位男子3位以内、女子2位までの入賞者とする。ただし、リレー種目は上位入賞2チームとする。なお、男子400m自由形及び男子800m自由形は順位条件を満たすと共に参加標準記録の突破（同タイムも突破となる）したものに限る。

(3) 団体の部は、下記のように定める。ただし、全国開催校枠がある場合は（5）に定める。

(ア)優勝チームのみの競技

硬式野球、バスケットボール（男・女）、テニス（女）、バトミントン（女）、バレーボール（男・女）、卓球（女）、剣道（女）

(イ)優勝および準優勝の上位2チームの競技

テニス（男）、バトミントン（男）、ソフトテニス（男）、サッカー、卓球（男）、剣道（男）、柔道（上位1校と2校の隔年。令和8年度は2校）、ラグビーフットボール、ハンドボール

(4) 個人の部は、下記のように定める。

(ア)ソフトテニスは、男子上位3組、女子上位2組

- (イ)卓球は、男子シングルス上位2名、女子シングルス上位2名以内、男子ダブルス2組、女子ダブルス2組以内
 - (ウ)柔道は、男子階級別（66kg級・73kg級・81kg級・無差別級）の各上位2名、女子階級別（52kg級・57kg級・63kg級・無差別級）の各上位3名。なお、女子は1階級上への出場可。
 - (エ)剣道は、男子上位4名以内、女子上位3名以内
 - (オ)テニスは、男女シングルス共に上位2名、男女ダブルス共に上位2組
 - (カ)バドミントンは、男女シングルス共に上位2名、男女ダブルス共に上位2組
- (5) 開催校枠を保持している全国開催校のチーム・選手が上記規程の順位内に入った場合、ハンドボール、バレーボール（女）、卓球（女）、バドミントン（女）を除いた競技については、上記規定の順位の1つ下の順位に入ったチーム・選手（複数該当する場合はその中から代表決定戦により選出されたチーム・選手）も、全国大会への出場権を得るものとする。
- (6) 選手が1名も選抜されない学校については、その学校の最も優れた選手を（リレー種目を除く）個人競技種目のいずれか1種目に1名または1組出場させることが出来る。
- (7) 自然災害などにより大会が実施されなかった場合には、各競技の特別ルールにより、出場者を決定することができる。

12 その他

- (1) 担当校は、大会の運営について競技上の事故防止等に十分配慮すること。
- (2) 担当校は、気象警報発令時及び災害発生時においては、競技参加者及び大会関係者の安全を第一として競技実施の有無その他対応について判断し、決定した内容について速やかに参加校ほか関係機関に連絡することとする。各参加校においても、学校内の連絡先を点検し、連絡体制を確立しておくこととする。
- (3) 競技中の負傷については、各担当会場校で応急処置を施すが、その後の処置は参加校で行うものとする。
- (4) 選手は、医療機関の受診に備え、マイナ保険証等を必ず持参すること。
- (5) 高専学生として品位と節度のある応援を行うこと。